平成２４年度　第３回社会教育委員の会議　会議録

１　開催日時　平成２４年１１月２０日（火）　１４時００分～１６時００分

２　開催場所　人材かがやきセンター　研修室

３　出席委員　１３名

廣瀬委員長，木村副委員長，櫛渕委員，福田委員，高崎委員，塚田委員，
菅原委員，吉田委員，勝田委員，伊藤委員，石澤委員，河田委員，齋藤委員

４　会議の公開・非公開の別　公開

５　傍聴者　０名

６　議　事

（１）　報告事項

第５４回全国社会教育研究大会山梨大会の参加報告について

（２）　協議事項

①　「(仮称）第２次地域教育推進計画」の中間取りまとめについて

・　施策等の考え方について

・　中間取りまとめの内容について

②　「(仮称）宇都宮市読書活動推進計画（第２次図書館機能・サービス向上計画，第３次子ども読書活動推進計画)」の骨子（案）について

（３）　その他

社会総ぐるみによる人づくりの提言について

７　発言の要旨

廣瀬委員長	皆さん，こんにちは。 それでは早速，議事に入りたいと思います。報告事項が１点，協議事項が２点ございます。最初に第５４回全国社会教育研究大会山梨大会の参加報告について，事務局から説明をお願いいたします。
事務局	【資料について説明】
廣瀬委員長	ありがとうございました。 それでは，来年度，栃木県で大会が開催されます。日程が決まっていれば確認させてもらえますか。
事務局	【日程について説明】

廣瀬委員長	委員の皆様方は参加要員となるので，日程の調整をよろしくお願いします。それでは，報告事項について終了したいと思います。続いて，協議事項に入りたいと思います。「（仮称）第２次地域教育推進計画」の中間取りまとめについてお願いします。
事務局	【資料について説明】
廣瀬委員長	ありがとうございました。それではまず，資料２－２で具体的にどんな事業をするのかということを議論したいと思います。質問やご意見，ご感想でも結構です。 菅原委員，家庭教育支援のところで，施策６では「家庭教育支援の充実」について記載されておりまして，「コミュニティの希薄化や社会経済の変化等により，家庭の教育力が低下している」と書かれているのですが，ＰＴＡとしてどのように考えますか。
菅原委員	はい。確かに，家庭の教育力の低下もそうですが，家庭というか教育以前のしつけの問題も重要だと思います。幼稚園や保育園で子ども達と一緒に，親に対する学習機会も提供して欲しいと思います。小学校に入ると親の出席が必要な色々な会合に出席していただけないということがあると感じています。
廣瀬委員長	ありがとうございました。家庭だけではなく，地域・社会全体の教育力が低下しています。家庭の教育力の低下だけのせいにはされていないところではありますが，ここだけ特出しされているので，気になったところです。他に皆さん，ご意見いただけないでしょうか。
石澤委員	私も親学ということで，家庭教育の推進を行っています。資料２－１の市民意識調査の結果で，家庭の教育力のアンケート指標を見ると，家庭の教育力が低下しているという市民の割合は，平成１９年度と平成２３年度を比較すると，平成１９年度は８３．１パーセントのものが平成２３年度には７０．１パーセントになっています。これは，家庭の教育力が低下していると思う市民の割合が減っていると考えていいのでしょうか。家庭教育については，アンケートに回答する年齢層が違ってくると，指標も変わってくるのではないかと思います。若い世代の人たちにアンケートを取ると，数字は変わるのではないかと感じています。この市民意識調査のアンケート結果をそのまま見るというよりは，地域や周りの方との接触がなくなってきて，自分のことしか知らないので，このような指標になっているのではないかと思います。

廣瀬委員長	ありがとうございました。伊藤委員，いかがですか。
伊藤委員	家庭の教育力の低下をすごく感じます。親として，一体どんなことをしたらいいのか，どのようにすることがちゃんとした大人なのか，ということが分かっているようで分かっていない。先人たちは立派な親になるための勉強をいつしてきたのかと考えると，祖父母や自分の親を見て，日常から学んできたのだと思うのですが，そういうことが今，だんだん薄くなってきて，身近に手本・見本となる大人がいない，地域の人達との関わりも薄くなってきたということをすごく感じています。
廣瀬委員長	ありがとうございました。施策６が関連しているのは，施策３の成人教育の充実だと思うのですが，社会には出ているが，社会的規範などが不十分な大人がいる，いわば，大人が劣化しているという感じがするのですが，そのあたりはどう見たらいいでしょうか。
河田委員	教育以前の問題というよりは，教育そのものが大切だと思います。今，教育力が落ちていると言われていますが，昔の親もそんなに大層なことはしていないと思います。教育力が落ちているのではなく，教育したいと思っているが，周りが今の親たちを煽り立てているので，疑問に思っていなかったことを疑問に思ってしまうという状況になっているのだと思います。決して私は今の親が教育に対して昔ほど熱心さに欠けるということではなく，逆に熱心になってきて困っているのではないかと思います。何をしたらいいか関心はあるが，ベクトルが分からないだけだと思うので，子育てのベクトルを示していくと良いと思います。
廣瀬委員長	はい。ありがとうございました。高学歴の親が多くなっている中で，教育力が低下しているとは一体どういうことなのか，私も不思議に感じるのですが，斎藤委員，いかがでしょうか。
斎藤委員	私は実際に小学生を子に持つ母親ですが，毎年担任の先生が変わると，先生によって子どもも変わってくるのを見て，もちろん先生は選べないし，どうしたらいいのかという事がしばしば見受けられます。また，周りの子と違うと言われると，そんなに違うのかと親として悩んでしまうし，どこに相談したらいいのか分からない，ということがあります。 もう１つ，施策２に「自立した一人の人間として」とあるのですが，自立の定義が分からないので，説明していただけたらありがたいと思います。
廣瀬委員長	事務局，お願いします。
事務局	自立の定義として，ここではあまり，はっきりと記載はないのですが，私

どもが考えている自立というものは，人間力と非常に関係があります。自分の内面を育むということと，自分自身の成長だけではなく，多くの人に学んだことなどを伝えられる，そして，変化の多い世の中を自ら考え，さまざまな課題を解決し，生きていけるような人間だと認識しております。

廣瀬委員長　「自立」という言葉は，決して悪いことではなく，個人の自立と社会参加など，とても重要な課題だと思います。ただ，市民には様々な方がいるということを頭の隅に置いていただきたい。例えば，自立したくても自立できない人たちや，障がいを持った方々，あるいは貧困や高齢で介護を必要としている方々など，その方々にとっては，個人の自立と言われた時に，見放された感覚がすると言われたことがあります。社会教育の計画というのは，そういう人たちへの配慮もしながら，例えば，「自立の連帯」など，言い方を柔らかくするなど，工夫して表現していただけるといいのかなと思います。

木村副委員長　人間として自立して生きていくということは重要だと思います。ただ，自立をしていくということは，一人で生きていくという意味ではなく，一般社会と関わっていく中で生きていくということが重要です。また，家庭教育の件は，例えば私達の年代ですと，父親はどちらかというと子どもの教育にはほとんど関わらず，イベントや行事の時に，母親が参加するという形態だったのですが，私の子どもの世代は，子どもの行事には，ほとんど夫婦で，家庭が関わっています。家庭の教育力が落ちているのかどうかということは一概には言えないという部分があると思います。ただ，生きていく上で，家庭の中から社会に還元をしていくというような，何の為に勉強をして，何の為に成長をしていくのかという過程の中で親が大事な事を教えられるのは，生き様を子に見せながら，生きていくということだと思います。そういう意味では，私達は，親が一生懸命働くのを見ながら育ちましたので，口で教えてもらわなくてもその姿・形・行動を見ながら学んでいけたのですが，反対に私達の年代は何を教えたのかというと，物質社会の中で，物をあげたりなど，本当に大切なことを教えてこなかったような気がします。社会に尽くしながら社会のためになることを親が考え，子どもに何を教えるのかということが，すごく大切だと思います。もう一点は，今，結婚する人たちの年代に幅があり，ある程度歳をとってから結婚する人や，十代で結婚して子どもを産む人もいます。地域の中では，若い人が子どもを持ったときのフォローなど，地域が支えていくという事が今すごく大切になっていると感じます。そういう意味では，家庭力というか，そういうところに差があって，なかなか一つの家庭として成り立たないような所には，それを支えていくような仕組みが大切であると，日々感じております。

廣瀬委員長　ありがとうございました。この問題は，重要な施策に関わる部分なので，資料２－２の裏面も見ていただきたいのですが，いかがでしょうか。委員の方々がおっしゃったことは大体施策の中に盛り込んではあると思います。施策８は，大人も子どもも地域とのつながりや関わり合いを持ち，学び合うということです。大体反映されているのではないかと思うのですが，いかがでしょうか。

櫛渕委員　私は，地域で育てる環境づくりが大切だと感じるのですが，今，木村委員が言ったように，昔と今では育つ環境・時代が違っています。今の人は，昔，父親ができなかったことを自分の子どもにしてあげたいということで，教育・家庭に参加している男性もいます。そういう家庭が身近なところで多いのではないかと思っています。私たちの役割として，少人数の集まりから，少しずつ自分が感じた事を若いＰＴＡなどに伝えていくのはどうかと思い，私の地区では，小規模で月に２回のサロンを開催しています。今まで何もしなかった人でも，身近な所から私たちがボランティアをやってみせたりするなど，行動を起こせば，若い人も参画してくれると思います。

廣瀬委員長　貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。その他の委員の皆さん，いかがでしょうか。

勝田委員　いつの時代も「昔は良かった」というのがずっと続くのかなという気がします。例に挙げると，地域コミュニティセンターについて，以前は東西南北の公民館，その下に分館があり，当時は教育委員会が大いに関連していて，力の入れ具合が幅広かったような気がします。制度が変わり，地域コミュニティセンターを，市長部局が管理するようになり，教育委員会が占めるパーセンテージは分館の時代と比べると逆転されたような気がします。そうしますと，昔の分館の時代の方が地域に溶け込んだ行事を行っていたように思います。予算の関係もありますが，今の地域コミュニティセンターよりは，地域に浸透した行事を組んで，若いお父さんやお母さんも参加していたという気がします。また，地域コミュニティセンターになってからは，会議の場所を提供するだけであり，何か行事をやるにしても，予算の中である程度のものを実施しているので，地域コミュニティセンターへの力の入れ具合が随分減ってきていると思います。だからといって，今の地域コミュニティセンターが悪い，とは言えない部分もあるのですが，そんな気がしてならないと感じています。

廣瀬委員長　ありがとうございました。地域コミュニティセンターの問題は制度が少しずつ変わってきたというのもありますが，社会全体の変化もあると思います。以前の構図よりも，むしろ地域分点型というか，それぞれの地域が対等な関係で，コミュニティを構築していくという，地域という一つのカテ

ゴリーで小さな地域主権みたいなものが，少しずつ生まれてくるというのも具体的な特徴になっているんだと思います。私も共感するところが多い意見をいただきました。ありがとうございました。

福田委員　施策とは違うと思うのですが，私が直接体験した事案があり，どのように対処すべきなのかと悩んでいる事があります。小学生を対象に，地域で卓球を指導しており，活躍できる強い選手も出てきました。小学生ですと，試合をして負けて泣いてしまうということがあるのですが，試合に負けたわけではないのに，友達からのたった一言の悪口で泣いてしまうということがあります。その一言で気持ちが動揺してしまい，試合もできなくなってしまうというようなことが現状で起きており，そのようなことに対してどのようにしたらいいのかと思っております。

廣瀬委員長　いかがでしょうか。

伊藤委員　私もすごく感じます。どうしてそんなことで，と思うことがすごく多いです。そういうたった一言の言葉で今の子はくじけてしまいます。大人としてできることとして，「嫌なものは嫌と言ってみよう」と伝えています。今の子どもたちは，泣くことや大人に訴えることしかできず，自分で対処することができないのでそういうことを少しずつ教えていかなくてはならないと思いながら，「いじめ」と「おふざけ」と「からかい」とがすごく微妙だと思っています。最近は，言われた側を強い子にできるように，「嫌だからやめてください。」と自分で相手にきちんとアピールすることを訓練してほしいと伝えるようにしていますが，それもできないお子さんがいて，そういう子には，「嫌な時は嫌だと言わないと直らない」，また，「自分がされて嫌なことは，相手にするな」と指導しています。子ども達は子ども達で，分かったと言っていつの間にか遊んでいるので，大したことではなかったのかなと思ったりもしています。

塚田委員　今，ネット社会などで，子どもは情報に敏感になっています。その中で自分に対しての情報を大きく捉えてしまうのだと考えられます。大したことではなくても，大きく吸収してしまうのです。
一つ気になっていることがあるのですが，施策６について，「社会経済の変化」とありますが，社会情勢の変化ではなく，社会経済の変化なのですか。経済の変化というのは，家庭の教育力が低下するというのとあまり関係がないように思うのですが。家庭の教育というのは，親の背中を見て子どもは育つので，社会に向き合う姿を見せることが大切であって，家庭教育に関して，経済というのはどうなのでしょうか。

廣瀬委員長　ありがとうございました。社会経済ではなく，社会情勢ではないかという

ことですね。確かに，経済の問題は大きいことは事実なのですが，そのことだけが問題ではないのではないかとご意見をいただきました。

吉田委員　家庭教育の低下と一言で言いますが，幅が広いと思います。具体的には家庭教育は，しつけに集約されるのではないかと思います。なぜ，しつけがだめなのかということを考えた時に，当然，親だけに責任を押し付けるのもどうかと思います。また，地域とのコミュニケーション・連携が希薄になっています。あくまで一つの例ですが，学校は地域とのコミュニケーション，連携ということをすごく意識して，地域に向かって開かれた学校ということをやっています。そのため，学校の自由参観など，色々な行事を作って，地域を呼び入れる。そして，地域に向かって，情報を発信していく。これはすごく良いことではありますが，逆に言うと，学校は自分の情報を発信するのは熱心であるのに対し，地域の行事には入っていっていないのではないかと私は感じています。一つの例としては，地域のお祭りに，文化祭など学校の行事をぶつけてしまうということです。そうすると，せっかく地域でイベントを開催しても学校で行事があると，親も子どもも学校の行事に行ってしまい，地域の行事に参加できない状況が重なっているように感じます。そうなると，基本的に地域と学校との連携といっても，連携が実際に図れているようには見えません。
これは学校ばかりではありません。親も子どももいろいろな年齢層と交わる機会が圧倒的に少なくなっています。そういう交わり方が希薄なために，対人関係になると，親もひ弱です。発言の仕方を知らない，年上に対する口のきき方を知らない，あるいは質問をどのようにしたらいいのかなど，例えば，地域で会合をすると，若いお父さんお母さんが年配の人とどのように関わってよいか分からないので，黙ってしまいます。なので，年配の人は若者が黙っているので，自分たちの言いたい事を一方的に言うだけで会合が終わってしまい，コミュニケーションが成立していないのです。親が悪いわけではなく，子どもが悪いわけでもない。けれども，こういう現象が起きているということは，全体のコミュニケーション力，異年齢との関わり方が圧倒的に少ないからではないかと思います。施策８「地域での育ち・育てを高める環境づくり」の中で，「地域社会全体による教育活動への支援」とありますが，教育活動への支援というものを，社会教育委員としてどういう形でやっていけばいいのか。そして，地域全体としての活動の中にどのように組み込んでいけるのか。私自身は，まちづくり協議会の会長になっています。そういう中で地域を見ていますと，各自治会長さん，まちづくり協議会に入っているいろいろな地域団体などの会長さん達は，「自分で何をやるのか」という目標意識が希薄な気がします。去年やったことと同じこと，前任者と同じことをやっていれば確かに間違いはないのかもしれませんが，新しいことに対する発展がないのです。このような事を感じているものですから，もう少し，異年齢とのコミュニケーションを

取れるような，施策というものを我々も考えなくてはいけないのかなと思います。合わせて，生涯学習課を中心とした教育委員会の方にも，異年齢とのコミュニケーションがしやすくなるような，やりやすく，抵抗感のない教育支援というものを，地域においてもしていただければありがたいなと感じているところです。

廣瀬委員長　ありがとうございました。今，吉田委員からありましたように，特に施策７で学校教育支援の充実とありますが，その中に「総合教育」という言葉をどこかに入れていただきたいと思います。一方的に地域が学校支援をするのではなく，学校も地域の情報を得たり，貢献するなど，そういうシステムを入れていかないと良い関係はできないのではないかと思います。吉田委員の意見を反映させながら見直していただきたいと思います。私の方から一つありますが，基本施策３に「学習成果を地域活動につなぐ」という言葉があるのですが，学習した成果を活かすという言い方になってしまうと幅が狭くなるのではないかと思います。私としては，「学習活動を地域活動につなぐ仕組みづくり」と言った方が流れるような気がします。実際に地域の人達やまちづくりをしている人達は，学習や社会参加を行ったり来たりしているわけです。学習が終わったから，その学んだ成果を活かしてすぐに地域活動ができるはずがありません。学習と社会参加をうまく繋いでいくことが現実的なのです。もう少し現実的に表していただきたいと思います。
協議事項の施策等の考え方については以上といたしまして，次の協議事項，中間取りまとめの内容についてお願いします。

事務局　【資料について説明】

廣瀬委員長　全体の計画については，今，中間取りまとめとして出ているのですが，これからの流れはどのようになっていくのでしょうか。

事務局　計画の策定作業の動きでございますが，本日，施策等，中間取りまとめということでご意見をいただきまして，それを反映したもので再度，庁内での協議を行ってまいります。また，１２月下旬の教育委員会及び１月中旬にパブリックコメントということで，市民の意見の聴取を考えております。パブリックコメント前に，これまでいただいた意見，庁内での意見，社会教育委員の会議でのご意見を踏まえた計画素案につきまして，委員の皆様へ送付を検討しております。

廣瀬委員長　ありがとうございました。では，パブリックコメントの前に，皆さんがこの内容についてご意見があれば事務局の方にご連絡いただいて，それを反映させたものとして，パブリックコメントが実施されるということでよろ

しいですか。この時間内だけで全てを議論することはできないので，ぜひ，細かいことでも気になった点などがあれば，我々がチェック機能を果たしていきたいと思いますので，事務局へ連絡願います。
それでは，引き続き２つ目の協議事項，「(仮称）宇都宮市読書活動推進計画の骨子（案)」について，事務局から説明をお願いします。

事務局　【資料について説明】

廣瀬委員長　ありがとうございました。資料の３ページ目の（３）基本施策を見ていただきたいと思います。特に，この基本施策の１から６についてご意見をいただきたいと事務局から伺っておりますので，意見交換をする時間をとりたいと思います。いかがでしょうか。

木村副委員長　施策４の「ＩＣＴの推進や電子情報の活用促進」とありますが，市民がより早く適切な情報を入手するためということで，情報の入手にはインターネットが非常に早く適切に入手できる方法の一つであると思うのですが，図書館において，例えば，インターネットを市民が使いやすい環境になっているなど，具体的に何か施策として進めていくものがあれば教えていただきたいと思います。

事務局　図書館でのＩＣＴの推進ということで，南図書館では導入済みです。南図書館以外の図書館ではまだ導入されていませんので，導入に向けた環境整備を進めたり，地域図書館情報システムの構築ということで，図書館の予約がしやすくなったり，より図書館を使いやすくなるような，環境整備を行っていきたいと考えているところでございます。

木村副委員長　個人でパソコンを持っていない人でも使えるのでしょうか。

事務局　パソコンがなくても図書館に常設しておりまして，インターネットで自由にご覧いただける環境もございますので，お越しいただければご利用いただけます。より使いやすくなるようにしたいと考えております。

廣瀬委員長　ありがとうございました。市民の方々の意見も反映された計画策定になっているようですので，今後，お気づきの点がございましたら，生涯学習課の方にご連絡いただきたいと思います。大きな変更点は，子ども読書活動推進計画と合体して，宇都宮市読書活動推進計画という大きなくくりになったということだと思います。それでは，この点においては議事を終了したいと思います。次に，その他，「社会総ぐるみによる人づくりの提言について」教育企画課からお願いします。

事務局　【資料について説明】

廣瀬委員長　ありがとうございました。先程，勝田委員の方から地域コミュニティセンターにおける教育委員会の影響力が落ちたのではないかという危惧がありましたが，まさに，その危惧を解消してくれるような提案ではなかったかと思います。教育委員会全体で，もっと社会のいろいろなところで人づくりという発想を広げて，教育という概念を復習していこうという提言で，この人づくりの提言が出来上がっていると理解しています。皆さん，何かご質問やご意見ございませんでしょうか。

吉田委員　提言はコンパクトにまとめられていて分かりやすいと思うのですが,「人づくり」という観点から考えると，何か一つ標語というようなものを掲げて，例えば,「恥」というのを大きな中核に据えたり，あるいは「いさぎよさ」など，一つの大きな人間の柱になるような言葉を大きく打ち出して，その下に，提言にまとめられているような事を枝葉として広げていくような事は可能なのでしょうか。「人のモラル」の大きな柱となるような標語が本来必要であると個人的に思います。

事務局　理念的なものというのは，地域教育推進計画のさらに上位の計画として先程ご説明させていただきました人づくりビジョンは,「宮っこ未来ビジョン」という上位計画がございまして，そこに大きな基本理念という事で,「心豊かでたくましく生きる人を目指して」という理念がございます。これは，その他に基本目標として７点ほどございまして，その目標を目指して社会総ぐるみでどのように行っていくかについて，その中での考え方など，目標を新たに作る必要があるかと考えております。

廣瀬委員長　ありがとうございました。やや抽象的で曖昧なのは，提言が地域教育推進計画より上位計画のためなのです。
その他，ご質問やご意見ございませんでしょうか。

木村副委員長　具体的方策を見させていただいたのですが，これは非常に分かりやすく，具体的に書かれていますし，非常に重要な取組が書いてあると思いました。これを読みますと，いろいろな施策によって人づくりを推進できる良いものだと思いました。

廣瀬委員長　ありがとうございました。ぜひ，人づくりの考え方が，教育委員会だけでなく，市長部局にも影響力を持つようにしていただきたいと思います。影響力を及ぼすような総合調整機能があれば，より良いと思います。我々が作っている地域教育推進計画に，教育委員会全体の大きな応援団的な良い提言書ができたと理解していきたいと思います。それでは，その他の案件

	については終了したいと思います。今日，予定された議題は以上でございます。事務局の方に司会を移したいと思います。
事務局	【配布物、次回の会議日程等について説明】
事務局	以上をもちまして，本日の案件は全て終了となります。委員の皆様におかれましては，長時間にわたりまして熱心にご審議いただきまして，誠にありがとうございます。それでは，以上をもちまして，平成２４年度第３回社会教育委員の会議を閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。